

令和3年2月20日
北関東フォーラム
於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム
令和3年度 第2回

おはようございます。

今日の講話もZoomで配信しておりますので、この会場へ入らずに別の部屋で見る人、自宅から見る人、東京で見る人、郡山で見る人・・・あちらこちらで見て戴くことが出来ます。本当にコロナで変わりました。もう少し経つと、このスタイルもごく当たり前のことになるのだらうと思います。

論語を読む ――遠きを致さば恐らくは泥まん

では、レジュメ通り素読から参ります。本日の論語は、子張篇の4、5です。子夏の門人が師匠の子夏から聞いたものを後世に残すという形で論語に収録されています。子夏が孔子から教わったものを、また自分の弟子に教えていくという流れです。

素読をする時は、まず情景を思い浮かべることをお勧めします。子夏と孔子の間柄はどういうものか想像して下さい。孔子は73歳で亡くなりましたが、その時、子夏は29歳でした。それくらい年の差がありますから、おじいさんが若者に教えるを垂れているような状況だと思います。

では、私が最初に読みますので、続けてお読み下さい。

【四】子夏^{しか}曰く、小道^{いわ しょうどう}と雖も、必ず^{いへど}観るべき者^{かなら み}有り。遠きを致さば恐らくは泥まん^{ものあ とお いた おそ はず}。
是^{ここ}を以て君子^{もつ くんし}は為さざるなり^な。

世の中には色々興味を持つものがあるけれど、本来自分がやらねばならないことに真剣に取り組んでいる最中に、他のものに目を奪われてはいけない。政をする者は、小さな道楽はやめて、政に真剣に務めなさい。

子夏は莒父（きよほ）という所の宰（地域を治める位）になっているので、まあまあ優秀なのでしょう。ただ、孔子から見ると、引っ込み思案で次から次へと手を打っていくタイプではない、よく言えば思慮深いということでしょう。論語の別の章では、孔子が子夏に対して「小利を見れば、則ち大事成らず」（小さい事、目先の事に拘泥しては、大き

く全体が見えない)と教えています。そこらへんを踏まえて、子夏がこう覚えたわけですから。

若い方もおられるので、少し意識を致します。親から見て、そろそろうちの息子は嫁をもらっていい年頃になっている。親としては心根の良い女性で、この人なら人生順調に行くだろうと思える女性と一緒にしてもらいたい。ところが息子は、心根が曲がっていても見かけが良い女性にフラフラとなびいている・・・そういう説明でいきましょう。

美人でうっとりする女性に目を奪われると、間違えてしまうものだ。一緒になって長い人生を歩んでいこうとするときには、必ず弊害が出るとお考え下さい。

「是を以て君子は為さざるなり」の部分は、中江藤樹を書き終えましたので、藤樹で説明しましょう。中江藤樹が結婚したのは30才の時です。本人は儒学の「自立」(三十にして立つ)を意識していました。20代は一所懸命勉強して必死に学問の道に励んで、弟子がどんどん増えました。そういう状況でしたから、勧める人があって17歳の久という娘と一緒にになりました。久の器量を見て、藤樹の母親は不器量だからと離縁を勧めました。藤樹は孝行息子でしたが、不器量だから離縁するというのは儒学に反するからと、母親の意見を押し切っています。

会社の社長で考えれば、会社のトップは賭け事や余計な事に手を出さずに一生懸命人格を磨きなさい、と捉えます。私は先日、目が覚めてふっと「民は由らしむ可し、知らしむ可からず」という論語の言葉が浮かびました。会社の社長というものは、社員を由らしむる努力を一生懸命しなさい。社長という肩書だけでは、社員は寄って来ない。社長が会社に顔を出したなら社員が笑顔で寄って来る、そうなるように人格を磨かなければいけない。社長が社員のことを考えて一生懸命色々な事をやっても、その努力がなかなか社員に伝わらない。そうであれば、まだ自分の努力が足りないと思って更に自分を磨きなさい。・・・そう私は理解しています。

内閣総理大臣であれば、自分のやりたい事も少し棚に上げておいて、国のことや国民のことを考えて職務に邁進しなさい。「民は由らしむ可し、知らしむ可からず」で、総理大臣の職務を一生懸命やっているにも関わらず、国民に伝わらないのは悲しいことだ…そう思って、人格を磨く努力をしなさいと捉えます。

脱線になりますが、皆さんも「あなたの座右の銘は何ですか」と聞かれることがあると思います。中斎塾フォーラムで学ぶ中で、座右の銘になるような言葉が見つかるの良いと思いますし、論語の中でそういう言葉があれば良いですね。

昔の学問の師匠は、自分の弟子に良いと思う字を授けたりしました。山田方谷は自分の

お弟子さんに論語の「剛毅朴訥」から、「剛」を大正天皇の侍講になった川田甕江に、「毅」を二松学舎大学を創立した三島中洲に授けています。ですから川田甕江の本名は川田剛、三島中洲の正式な名前は三島毅と言います。

ちなみに私は「中齋」という号をつけました。石川梅次郎先生に号をつけたいと相談したところ、好きなものをつけなさいと言われました。「中」は、中庸・中道・中有といった言葉がありますが、安岡正篤先生の解釈は、真ん中という意味ではなく、色々なものをよく混ぜて、それらを一つ上のレベルに上げ、その上がった所を「中」といいます。ですから一生懸命修行・勉強して、一つ上のレベルに到達することです。尚且つ、仏教や儒学や道教などの教えの中で、「中」という文字はその精髓を表すものですから、そこから戴きました。「齋」は、太陽の恵みが世界にあまねく伝わり、その光は見えない部分にまで行き渡っていく、という解釈があります。

【五】しか いわ ひ そ な ところ し つき そ よ ところ わす な がく
子夏 曰く、日に其の亡き所を知り、月に其の能くする所を忘るること無きを、学この いを好むと謂うべきのみ。

子夏が云うには、毎日、自分が知らない事を知って嬉しさを覚える。そして毎月、それを反省チェックして忘れないようにする。それこそ学問を好む者と言える。

渋澤栄一は論語の「三省」という言葉を実践しました。夜寝る前に、今日は誰と会ってどんな約束をしたか思い出して、納得してから寝るように習慣づけていました。そのおかげで「渋澤の記憶術と世に言われるようになった」と語っています。論語の中から役に立つものを見つけて、それを実行し身に付けていた。そのように論語を活用していたわけです。皆さんも是非、論語の中から生きる上で役に立つものを見つけて、実行して身に付けて戴く、そのように論語を活用しましょう。

ちなみに、神田神保町にある三省堂の「三省」は論語から採っています。私は陽明学ですから、知ることと行うことがセットでなければなりません。「知るは行うの始めにして、行うは知るの成れるがなり」・・・体験の裏付けがなければ、本当に知ったとは言わないということです。そこで、実際に三省堂に行ってお聞きし確認しました。

話が逸れますが、私は「風林火山」という言葉が好きで、カラオケでも歌いますし詩吟でも吟じます。風林火山という言葉は「孫子」から来ています。「孫子」は戦をする時の心構えと、実戦の仕方を教えています。すなわち、観念の知識（机上の知識）は本物では

ない、机上の知識を骨の髄まで身体に沁み込ませていけば、戦は勝つ。日本の将軍が日清・日露の戦争で勝利をおさめたのは、腹を練り知識を骨の髄まで沁み込ませた結果、知識が単なる観念上のものでなく具体的な実戦で使いこなせたからです。アメリカに負けたのは、日本の将軍が観念上の知識で戦ったからだと言えます。

コロナワクチン接種

今回のコロナワクチン接種ですが、政府は非常に有効だからとコロナの切り札として接種を進めています。皆さんは、ワクチンが接種できるとなれば希望しますか？ すぐに受けたいという方？ 暫く様子を見たいという方？ ……ご本人の考えですから、どちらが良いとは申しません。私は判断を迫られる時には、ご存知の通り「判断の三原則」で考えます。

ワクチン接種の本質は何か。菅さんは何を考えて接種を進めるのか。何のためにコロナを終息させたいのか。自分の保身のためか、菅政権の延命のためなのか、はたまた国民を救いたいと思ってやるのか……。接種をすることによって犠牲がどれくらいあるか、それを踏まえて、天秤にかけつつ集団免疫を作ろうとしているのか。その狙いは何なのか。……そういうものの考え方を私はしています。結論は出ていません。

歴史で考えます。今回のコロナワクチン接種では副反応という言葉を使いますが、私は副作用という言葉は何なのかと疑問を持ちました。調べてみると、1989年のワクチン接種にぶつかりました。風疹・麻疹・おたふく風邪の三種類を混ぜた三種混合ワクチンの接種です。その時は、国民の義務として接種を進めたわけですが、当初は副反応について政府の見解は、10万人～20万人に1人の割合で副反応が出るという数字でした。暫くすると、3000人～30,000人に1人という数字に変わりました。最終的に、1200人に1人は副反応が出るという政府見解が出ました。民間の専門医の見解は500人に1人という数字でした。その結果、日本各地で裁判が起きました。国民の義務ということでワクチン接種を受けて、副反応に苦しんでいるという裁判が各地で起きて、政府は負け続けました。そして、4年後に法律が改正され、「義務」から、受けたい人は受ける、受けたくない人は受けなくてもよい、本人の意志に任せるという「努力義務」に変わりました。ですから今回のコロナワクチンの接種も、国民の努力義務です。私は今回のコロナワクチンについて副反応がどの程度なのか、500人に1人なのか、20万人に1人なのか、知るべきだと思っています。

大局で世界各国の副反応はどうかを考えます。幸い、世界各国が色々な情報を流しています。イギリスではヒューマンチャレンジということをやりました。コロナウィルスを人為的に感染させる実験です。ワクチンを接種した人にコロナウィルスの量（程度）を

分けて感染させ、ワクチンがどの程度効果があるかを調べる。また、ワクチンを接種していない人でコロナ陽性の人に、ワクチンを接種したらどの程度効果があるか調べる。それがヒューマンチャレンジという実験だそうです。他の国々でも似たようなことをやり出しています。その結果をよく噛み締めて、納得してから手を打てば良い。私はそういうことが全部分かってから、接種を受けるかどうかを決めようと考えています。コロナワクチン接種について、判断の三原則をそのように活用しています。

恒例の質問

では、恒例の質問を致します。今年に入ってまだ2ヶ月経っていませんが、その期間でお考え下さい。

○ 良い日が比較的続いている方

何度も申しますが、良い日・悪い日を客観で考えない。自分の主観で、良い日が1日でもあれば、それを膨らませればよいのです。それが自分のためになります。

○ 嘘をつかない。嘘に縁のない日々を送っているという方

○ 有難うと言ひ、有難うと言われることが多かったと思う方

○ 身体の手入れをよくやっている方

・・・今朝も山崎先生に棒術を教えて戴きました。残念なことは、福島幹事お一人の参加でした。あとはシムックスの若い社員が来ております。棒術によらず身体の手入れから始まります。身体の手入れをご自分で考えてやっておられる方は宜しいですし、もう少し専門的に覚えたい方は、どうぞ御参加下さい。

○ 自分磨きを一所懸命やっている方

自分磨きは陽明学でいうと、事上磨錬と言います。陽明学を勉強する方は、事情錬磨とも言います。日々の生活、日々の仕事を一所懸命やる中で自分を磨き、世の中の役に立っていく。これを身体で覚えていくことを事上磨錬と言います。

○ 昨晚寝る時に、明日や明日以降の事でやるべき事が出来て良かったと過去形で考え、納得をして眠れた方

お二人手が挙がりました。これは大変難しい言葉で言っているので、もう少し私が研究して、もっと分かりやすい表現にしたいと思っています。

ちなみに、シムックスの経営哲学は「国家・社会に指標をもたらす業を追求実践し、現代繁栄の礎を築き、次世代に伝承する」です。これは私が20代で考えたものですが、長くて固い言葉で分かりにくいため、社員に浸透しませんでした。そこで、「次の人を育てる」

という一口哲学に集約しました。古い社員は経営哲学をきちんと言えますが、若い社員は一口哲学しか言いません。

論語の基本は「仁」であると世間の学者は云いますが、私は、論語は「述」が基本であり、精髓であると思っています。この意味は伝える、バトンタッチという意味です。親から、先祖から、先輩から、色々な人々から聖火ランナーのリレーとして松明を受け継ぎ、それを更により良いものにして次の世代に伝えていく。孔子が論語を残したのではありません。孔子は教育をしただけです。教育をした結果として、弟子たち・孫弟子たちが孔子の言行を残したいと思って、皆で相談して論語という書物を作り、それが後世に伝わったわけです。孔子が論語を書いたわけではありません。孔子の思いは、自分が世に出て、直接弟子を鍛えて世の中の政につかせるということだったわけですが、思い通りの実力を発揮できないまま孔子は亡くなりました。死ぬ前に、弟子を作って自分の思いを伝えたい、そう思って伝えていったわけです。＜次の世代に伝えたい＞という思いが、論語に込められている精髓です。

令和3年を生き抜くヒント

では、本日のテーマ「令和3年を考える」に参ります。

①辛い・苦しい・むごい年回り・・・令和3年は「辛丑」、辛いのは当たり前、苦しいのは当たり前。尚且つ心が苦しむのは、酷いが出る、今年はそういう年回りです。

②コロナは一步一步人間社会に入り込み、しっかり地歩を固める年回り・・・コロナが地歩を固めるのです。人間ではありません。コロナはもう当たり前だと思って下さい。

③一気に落ちてゆく人々と、一気に駆け上がる人々が生まれる・・・ヒントが一つあります。ヨーロッパやアメリカで大金持ちは我々に税金を沢山かけてくれと主張しています。何故か・・・これは考えて戴きたい。ここに挙げた、辛い・苦しい・むごいというのもヒントですが、大金持ちが税金をかけると言っていることが大きなヒントです。

そう考えると、そのヒントから出てくることは、コロナは目くらましだと思います。全世界を巻き込んでコロナがこれだけ広がっているのは、コロナを広げたいと思う人間もいるはずですが、結果として広がっていますね。コロナが全世界の覆っている間に、何か起きています。どこの国でも、何か大きなとんでもない事を仕掛ける場合は、目くらましをかけます。全世界でコロナが広がっている水面下では、大きな出来事と後で言われるようなものが仕掛けられている。或る日突然何か爆発をしたら、我々の生活は一変することがあり得る。そういう水面下での何かがある。それが表面化した場合は、辛く・苦しく・むごいことが直ちに起きると思っています。

もう少し具体的なヒントを申します。昭和 21 年 2 月 27 日、日本は緊急金融措置令が出ました。預金封鎖です。新しいお札が出回るから、古いお札は使えませんということで銀行家がお金をおろせなくなりました。これは今聞くと歴史的な物語だけれども、その時生きていた人々は、或る日突然です。昨日まで考えてもいないことが新聞で発表になり、法律がその日に施行されました。或る日突然、生活が変わったわけです。そして、今まで持っていたお金は紙くずになったのです。何度もお話していることです。

以上で、本日の講話はここまでと致します。